

各チーム代表者

レクバレーをみんなで楽しむ会

代表 角田 健吾

2012年10月7日作成

2014年4月26日改正

2016年4月 8日改正

2016年11月27日改正

審判チームの心得

試合をするチームにとって、主審はもちろんのこと、主審を支える、副審、線審、スコアラーの役割がとても重要です。時には、試合の勝敗を左右する場合も出てきます。

従って、各チームの皆さんが審判チームとして担当する時は、それぞれの役割を正しく理解して大会を支えていくようご協力をお願いします。

尚、Hブロックのチームは、副審、線審に限って適任者がいない場合は、本部席まで申し出てください。

以下よくお読みください。

【副審・線審・スコアラーの共通事項】

- ① 大会当日、チームのメンバー全員が、審判チームの心得についての説明を聞く
(基本的には最初の試合前;前の試合が1セット終了時)
- ② 試合当日、副審・線審は、大会参加者名簿に「副審」・「線審」と記載した者のみが行う。
- ③ 特に副審担当者は、事前に笛の用意を忘れない。
- ④ 首や腰にタオルをかけない。だらしない恰好をせず、姿勢よく集中する。
- ⑤ 試合開始時と終了時は、コートサイドに右から主審・副審、ネットを挟んで線審2人が整列する。
- ⑥ 審判チームの、副審、線審、スコアラー以外のメンバーは観客席へ移動する。

【副審について】

- ① 主審の補佐として、笛を必ず持ち(口にくわえ)、支柱(ポール)より1～2歩離れ、ネットをはさんで絶えず最適な位置に速やかに移動してジャッジする。
サービスの際はレシーブ側を、それ以外は攻撃側を見る。
- ② ネットタッチおよび、サーブを受ける側のアウトオブポジションを、主審に吹笛かネットを揺らして合図する。
特に、ラストボールを打った後のアタッカーやセッターのネットタッチをよく見る。
- ③ 得点するごとに点数を必ず確認する。点数が間違っていれば主審に伝えてから、スコアラに指摘をする。スコアラの行う、セットカウントの□1カードの表示、タイムアウトの●カードの表示を確認する。セット終了ごとに、ボールを持って得点の確認に行く。
- ④ 副審側のマーカー外通過に注意をし、反則であれば主審に速やかに吹笛で合図する。
- ⑤ 隣のコート(サイドラインの延長線上も含む)にボールや選手が進入した場合は、その時点で反則(隣のコートで試合をしていなくても同様)のため、最後まで確認する。
ポール、審判台を除いて、壁、本部席、スコアボード、椅子等に体の一部が触れた場合も反則行為(危険回避が最優先)のため、同様に最後まで触れないか確認する。
- ⑥ 他コートのボール進入や選手の負傷があった場合は、直ちに吹笛をして主審に知らせる。
(危険回避が最優先)
- ⑦ ネットプレーの際、ボールに誰が触って何回で返したかをしっかり見る。
- ⑧ 主審の判定について選手からアピールがあり、主審から確認を求められた場合に限り、公正な判定のために意見を述べることができる。(主審から見えないドリブル・ホールディング、ワンタッチ、イン・アウト、何人触ったか、等)
※ ②、④、⑤、⑥以外は、副審は吹笛できない。
- ⑨ 試合ボールは、「試合開始時」、「セット間」、「試合終了時」は副審がキープする。
(8点、選手交代やタイムアウトの時の試合ボールのキープは線審)
- ⑩ 危険が予測される場合を除いては、試合ボールを拾いに行かない。

【線審について】

- ① サーブ順及びサーブの本数(3本まで)を確認する。※一番多いミスなので、要注意!
- ② 線審は、主審・副審の補佐として、合図やジャッジを行う際は、旗でシグナルを送る。
- ③ 試合開始に際し選手がポジションについたら、シートオーダー表と照合し間違いがなければ主審に旗を上げて知らせる。間違っていればシートオーダー表どおりのポジションについてもらう。
- ④ 線審のポジションはラインから1m程度離れた位置を基本とするが、ボールのコースを予測しながら、エンド・サイドラインそれぞれの延長線上に速やかに移動してジャッジする。また、プレーの邪魔にならないように、選手の動きに応じて速やかに移動する。
- ⑤ アウト、インを正確にジャッジする。(ボールの中心がラインにかかっている場合はイン)
- ⑥ サーバーのラインクロスは、旗と腕を頭上でクロスさせて主審に知らせる。
- ⑦ マーカー外通過(マーカー外通過した後に最終的にコートに入ってもアウト)の場合は、旗を頭上にあげ左右に振って主審に知らせる。ライン際でのワンタッチは上方に向けて旗の先端に一方の手の平を乗せ、2、3回軽くたたいて主審に知らせる。
- ⑧ 手持ちのピストルに付けたシートオーダー表を見ながら、サーブ順と打った本数の問い合わせに答えられるようにする。記憶に頼らず、ピストルを使用する。
- ⑨ サーブ順の間違いに気づいたら、選手がサーブを打つ前に、すぐにサーバーに知らせる。(声をかけるだけでなく、選手のそばまで走り寄る。)
- ⑩ 選手交替があった場合は、背番号とシートオーダー表をチェックして間違いがなければ、主審に旗をあげて合図する。
選手交替がない場合でもポジションを確認し、間違いがなければ旗をあげて合図する。
- ⑪ 選手交替やタイムアウトの際、サーブ権のあるチーム側の線審が試合ボールをキープする。(試合開始時とセット間は、副審が試合ボールをキープする。)
- ⑫ 背番号が見にくい場合は、試合終了後に主審を通じて本部席世話人にその旨を伝える。
- ⑬ 危険が予測される場合を除いて、試合中にボールを拾ったりしない。
- ⑭ チェンジコートの際には、選手と一緒に反対側のコートに移動する。

【スコアラーについて】

- ① スコアラーは2名のみで行う。（周りの選手からの声かけ等に応じない。）
- ② 主審が行う得点シグナルを見てから、正確な得点表示をする。
(サーブ権の矢印や赤玉等の使用は不要)
- ③ セットが終わるごとにチームプレートの移動(左右入れ替え)はしない。
- ④ セットが終わるごとに結果表に得点を記入し、副審が確認に来た後に得点をリセットする。
(試合終了時は、主審が確認)
- ⑤ スコアボードに、セットを取ったチーム側にカード「1」、タイムを取ったチーム側にカード
●を表示する。(タイムは、一セットにつき各チーム1回。3セット目はなし)
- ⑥ 他コート of 試合を見たり、スコアラー同士で必要以外の話をしない。
- ⑦ 椅子に座る位置は、両チームの選手や本部席から得点が見えるように配慮する。
(必要以上に前のめりになっていると、周りから見づらいので注意すること)